

Let's TANQ便り

「探究2.0」共創実践コミュニティの拡大に向けたニュースレター



「学びのタビ」を，問い，創る ～教育旅行に「新たな価値」を～

2026年7月6～9日，近畿日本ツーリストと高校探究プロジェクトの連携による「学校支援コーディネーター（初級）養成研修」を実施しました。初級では，事前・事後学習を含めた教育旅行をデザインし，学校に「新たな価値」を提案できる力を身につけることを目標としています。4期生として14名が参加し，配属や担当地域の異なるメンバーで取り組みました。

4日間の研修では，「これからの教育旅行とは」「学校支援コーディネーターとは」といった問いに向き合い，受講者自身がチームで修学旅行プランを作成しました。学校の教育目標や生徒にどのような変容を期待するのかを手がかりに，**旅前・旅中・旅後の学びをどのようにつなぐか，また，教科横断的な学びや問い，対話をどのように組み込むか**について検討しました。作成したプランはポスターセッションで共有し，相互評価や講評を受けながらブラッシュアップ。最終的には，企画提案資料としてまとめました。

研修を通して，受講者は，**修学旅行を「観光や思い出づくりが目的」のものから，生徒が教科の学びを活かし，多面的な価値観に触れる場へと捉え直した**と振り返っています。また，旅前の「問い」は，旅中・旅後にもつながるものであり，問いが生まれる場面設定が重要だという気づきも生まれました。さらに，「これまでのように学校の要望に応えるだけではなく，学校の理念や教育目標を解釈し，それを実現するための提案をしたい」「旅後まで鮮明なビジョンをもった修学旅行を提案したい」といった声も聞かれました。



学校支援コーディネーター養成研修とは

「学校支援コーディネーター養成研修」は，今年度で4年目を迎えました。

本研修では，**教育旅行を，教育目標や生徒の学びを実現する機会として捉え，学校と社会をつなぎ，学びをデザインする人材の育成**を目指しています。教育旅行を一過性の学校行事としてではなく，**旅前・旅中・旅後を通して問いが続き，生徒が自己や社会と向き合う「探究的な学びの場」**として捉え直すことを大切にしています。

昨年度は，第1期生5名が，上級研修の一環として，対話を重ね，近畿日本ツーリスト エデュケーショナル・ビジネス事業部における教育旅行の「経営理念」と「行動指針」を提案しました。（下記参照）

近畿日本ツーリスト エデュケーショナル・ビジネス事業部	
Team: 学校支援コーディネーター養成研修1期生 Date: 28,29 July 2025	
経営理念	自己理解・自己発見・自己成長する 「学びのタビ～人生へのインパクト～」を創出します。
行動指針	- 学校支援コーディネーターとして，学校と社会を繋ぎ，共創社会を目指して，学びの場を創ります。 - 変動する社会において多様な価値観を理解し，高い視座をもち，課題解決に向けて行動できる仲間を育成します。 - 学校や社会との関わりを通じて，ワクワク（新しい価値）を創出・共有・拡張することで，社員の働き甲斐，幸福度を高める。

これらの言葉は，教育旅行の現場で学校や生徒と向き合ってきた担当者自身が，**「私たちは何のために教育旅行に携わるのか」「教育旅行を通して，どのような未来を生み出したいのか」**を問い，対話を重ねる中で紡ぎ出したものです。

「学びのタビ～人生へのインパクト～」という理念には，教育旅行の新たな可能性と，それを担う学校支援コーディネーターの決意が込められています。

「教育旅行観」の変容

今回の初級研修では，プランを「つくる」ことだけでなく，仲間との対話や相互評価を通して，自分自身の「教育旅行観」を問い直すことも重視しました。研修の最後には，個人・チームでのリフレクションとアクションプランの作成を行い，今後の実践につなげる視点を明確にしました。

地域の魅力や課題を学校の学びにつなげ，一つひとつの提案に，生徒の未来へとつながる価値を込める。今回得られた問いと視点をそれぞれの現場へ持ち帰り，学校とともに作る新たな「学びのタビ」への一歩が始まります。



高校探究プロジェクト
※近畿日本ツーリスト

TRAINING OBJECTIVES
中級研修では、教育旅行を単発の行事として捉えるのではなく、日常の教科学習や特別活動、「総合的な探究の時間」などと結びつけ、3年間を見通したカリキュラムとして提案することを目指します。

Let's Start
学校支援コーディネーター（中級）養成研修

旅を「点」から「線」へ、学びのカリキュラムへ

2026年8月24～27日には、「学校支援コーディネーター（中級）養成研修」を実施しました。

10年後の社会から、学校教育の未来を考える

研修のはじめに、受講者は10年後の社会を想像し、社会の変化を多角的に捉えることから学びをスタートしました。そのうえで、次期学習指導要領の改訂を見据え、「総合的な探究の時間」と教育旅行等を含む学校行事との関係を確認し、教育旅行を学校の教育活動全体の中にどのように位置づけるのかについて理解を深めました。そして、**日常の教科の学習や探究のプロセスと結びつけ、これからの社会で求められる力を育む学びの場として構想することが、中級研修の重要な視点となりました。**

さらに、前年度の上級研修受講者が策定したエデュケーション・ビジネス事業部の経営理念を共有し、そこに込められた教育旅行の価値や、学校と社会をつなぐコーディネーターの役割を読み解き、「中級の学校支援コーディネーターには何が求められるのか」を受講者同士で考えました。未来の社会、学校教育の変化、事業部の理念、自分たちが担う役割。異なる経験や価値観をもつ仲間との対話を通して、これらを共通理解したうえで、具体的なプランづくりへと進みました。

学校の理念からプラン、そして、3年間のカリキュラムへ

まず提案先の学校の教育理念・教育目標、育成したい生徒像、生徒の様子等を調べ、それらをふまえたプランを構想しました。重視したのは、「その学校だからこそ、どのような学びが必要なのか」「生徒にどのような成長や変容を期待するのか」「教育旅行を3年間の学びの中にどう位置づけるのか」という視点です。受講者は、それぞれが考えたプランをポスターセッションで共有し、相互評価を通してブラッシュアップしました。さらに、お互いのプランを組み合わせながら、教育旅行を核とする3年間のカリキュラムへと発展させました。（右側参照）

初級から中級へー広がった視野と視座を高くして見えた役割

「初級では修学旅行単体で探究を支援するイメージだったが、中級では3年間のカリキュラムを通して探究を深める提案ができることを学んだ」といった声も聞かれ、受講者の視点や価値観が変容しました。中級の学校支援コーディネーターには、学校や旅行先を深く理解し、学校の教育理念と教育旅行の学習効果を結びつけて提案する力が求められるという気づきも生まれました。また、研修で得た学びを自分の中だけにとどめず、所属部署で共有し、同じ視点をもつ仲間を増やしていくことも、中級としての大切な役割であると捉えられています。

今回の研修での学びを、実際の学校への提案はもちろんのこと、社内で共有し、拡げられることを期待しています。



「問い」でつなぐカリキュラム

時期	研修形態	行先	問い	探究パターン
高1 4月	宿泊OT	東京	3年間でどんな学びの場にするのか？	②
高2 5月	海外研修（選択）	西欧	持続可能（幸せ）な社会とは？	② ③
		北欧	持続可能（幸せ）な社会とは？	② ③
高2 3月	修学旅行	離島	“Tokyo”における豊かな暮らしとは？	④
高3 4月	今後の人生		持続可能な島国づくりとは？	④

成果物として作成されたのは、東京都内の学校を想定した3年間のカリキュラムです。

行き先を決める前に、**学校の教育理念を読み解き、カリキュラム全体を貫く大きな問いを「持続可能な島国づくりとは？」と設定しました。**1年生のオリエンテーション合宿、2年生の海外研修（選択制）、離島への修学旅行、3年生でのリフレクションを、一つの学びとしてつなぎました。**それぞれの活動を単発の体験で終わらせず、旅先での出会いや対話から問いを深め、次の学びへつなげる構成**となっています。教育旅行を「行って終わる旅行」から、「問いをもち、多様な価値観をもつ人や社会と出会い、考え、表現し、新たな問いを生み出す学び」へと捉え直した提案です。

受講者の声・変容

【初級受講者】

- 学校の要望に答えるだけでなく、教育目標や生徒の実態を理解し、学びの目的から教育旅行を提案したい。
- 修学旅行を単発の行事ではなく、旅前・旅中・旅後をつなぐ探究的な学びとしてデザインしたい。
- 生徒が自ら問い、対話し、振り返る過程を大切にしたい。
- 学校の潜在的な課題を捉え、その学校ならではの「プラスα」の提案を実践したい。
- 学校支援コーディネーターとして、旅行の手配者ではなく、学校と社会をつなぎ、先生方とともに学びをつくる「伴走者」「共創者」を目指したい！

【中級受講者】

- 採用されるプログラムが一つであっても、その行事だけを見るのではなく、3年間、あるいは6年間の学び全体を見通して企画・提案していきたい。
- 1年生から3年生までの学びを「問い」でつなぎ、卒業時に、それまでの問いの連動性や自分自身の変容を実感できるカリキュラムにすることが大切だと気づいた。
- 学校や先生の考え方、社会の状況は変化し続けています。その変化を自ら捉え、これからの社会を見据えながら、探究や教育旅行の必要性を語れるようになりたい。